



# 菅生学園報

第16号 2024年10月号



## 理事長メッセージ



理事長  
島田 幸成

### 「自・然・が・教・科・書・だ。」

この言葉は東海大学菅生高等学校(当時は東京菅生高等学校)が昭和58年創設されたとき島田久前理事長が示した学園の教育理念を表す言葉で、今もなお、生き生きと我々に訴える言葉です。菅生学園は多摩丘陵の里山にあり、四季折々、移り変わる美しい自然に囲まれたキャンパスで学校生活が送れること、また、この自然を生かした様々な取り組みができることは、菅生学園の大きな強みです。

そうした素晴らしい自然ですが、時に自然は猛威をふるい我々の生活を脅かすものとなります。今から40数年前、開校当時、まだまだ地球温暖化による異常気象など、今のように大きな話題にならなかった時代でした。しかし、前理事長は台風の進路の変化や酸性雨など、具体的な事象から我々を取り巻く環境が年々変化していること、そして、こうした環境の変化が近い将来、我々の生活に大きな影響をあたえるだろうと、警鐘を鳴らしていました。

近年、異常気象に接し前理事長の言っていたことが、単なる予測ではなく、現実なものになってきたことを実感します。今年の夏は特に、異常なほどの暑さ、そして、大雨、雷、そして、迷走する台風などによる気象警報。熱中症に対する対策や異常気象による風水害から身を守る防災対策などのニュースがこれほど毎日流れた年は無いのでしょうか。これまで「異常」といわれた気候が、「日常」になりつつあると専門家がテレビで言っていたのが印象に残っています。

里山にいだかれた菅生地区は、「一木一草を大切にするという伝統を大切にしている。」と前理事長はよく言っていました。我々は常に自然にたいして謙虚な姿勢でいなくてはなりません。菅生学園で学ぶ私たちは、自然を教科書として、謙虚な姿勢で自然環境のことをよく学び、理解し、そして、この素晴らしい自然環境を壊さずに、次の世代に引き継いでいきたいです。



東海大学菅生高等学校開校時のポスター



今年1月に開催された東京私立小学校児童作品展での菅生学園初等学校の展示にも「自然が教科書だ」



### 東海大学 松前 達郎 総長 ご逝去

松前達郎東海大学総長は9月8日、97年の生涯を閉じ天に召されました。

ここに慎んでご冥福を祈り、哀悼の意を表します。

総長には幼稚園創立当時から大変お世話になり、その後も本学園のことを常に心に留めてくださり、何かとご支援いただきました。

総長の父で東海大学創立者の松前重義博士のお墓は西多摩霊園にあり、「望星塚」と命名されています。「若き日に汝の希望を星につなげ」という松前博士が青年に与えた言葉を象徴したものです。

1991年9月に総長が建立したこの「望星塚」に、後日納骨されます。



# 学園トピック

## 国際交流 キルギス共和国教育視察団 来校

6月10日、中央アジアのキルギス共和国の教育関係者の皆さんが視察のため学園を訪問されました。視察団は、大統領府附属中学高校のリスクロフ・ミエル校長をはじめ小中高一貫校校長、幼稚園園長など17名の皆さんです。

学びの城では菅生学園初等学校児童がキルギス国歌の斉唱などでお出迎えしました。午前中は学園の教育方針や教育内容についての説明を受け、その後給食を取られました。

午後は、視察団が特に関心を寄せている菅生学園初等学校の特別活動を見学。縦割り班活動や委員会活動、学校行事や挨拶運動などに主体的に取り組む児童の様子に、皆さん驚いた表情を見せていました。

その後は菅生高等学校中等部のSTEAM教育授業で電子黒板やiPadを使った新しい授業スタイルを見学しました。また、特別活動を世界各国に普及している特別講師清水弘美先生の講演、参加者によるディスカッションも行われました。最後には高校本校舎に移動して吹奏楽部を中心にクラブ活動を見学され、吹奏楽部の演奏に盛大な拍手が送られ、涙する方もいらっしゃいました。

日本の初等・中等教育の海外からの評価は高く、今回視察されたキルギスの視察団の皆さんも大変熱心に見学されていました。

島田理事長は西多摩新聞の取材に「東海大学の創設者の松前重義先生は世界に友達をつくろうという考え方の人だった。東欧諸国にも関係の学校があり、40年前にはモスクワ大学に野球場を寄付し、日、口、米の友好を願った。当園は今後も、世界との友好を育んでいきたい」と答えられました。



# 学園トピック

## 夏のグローバル教育 ①東海大学菅生高等学校・東海大学菅生高等学校中部

### カナダ語学研修

今年新たにカナダ語学研修が東海大学菅生高等学校・東海大学菅生高等学校中部生希望者を対象に行われました。参加したのは男子9名、女子1名のうち1名が中部部生でした。

- 目的：① 英語力の向上: 現地での日常生活や学校の授業、交流活動などを通じ、英語力の向上をめざす。  
② 自己成長と自己認識: 新たな環境や文化の中で自立し、問題解決能力や対応力を養う。その過程で自分の文化や価値観を客観的に見つめ直す。  
③ 国際社会での競争力の向上: 国際的な視野やコミュニケーション能力を高め、将来的に国際社会で活躍する可能性や競争力を高める。  
④ 異文化理解の促進: 他国の人々と交流し、自らの視野を広げ、異文化間の共通点や違いを学ぶ。
- 目標：① 主体的に考えて行動し、発言する  
② 英語を使って、コミュニケーションを積極的に図る  
③ 日本のことを伝える一方でカナダのことを実体験を基に学ぶ  
④ 何事にも挑戦する気持ちを持つ

場所：カナダ プリティッシュコロンビア州ポートコキットラム市BCクリスチャンアカデミー(BCCA)

日程：7月17日 カナダ・バンクーバー国際空港到着

- 18日 午前：オリエンテーション・英語授業 午後：ワイルドアドベンチャー(メープルリッジ：プリティッシュコロンビア州立大学の自然学習体験施設)  
19日 午前：英語授業 午後：プリティッシュコロンビア州立大学 キャンパス・ツアー  
20,21日 ホストファミリーと過ごす  
22日 午前：英語授業 午後：バンクーバーダウンタウン・ツアー  
23日 午前：英語授業 午後：スティーブストン・ビレッジ(和歌山県からの移民が住み着いて、かつてサーモン漁で栄えた港町・フィッシュマンズワーフ)  
24日 終日アクティビティ：ディープコーブでカヤック、リンキャンニオン  
25日 午前：英語授業 午後：お別れ会・ゲーム・修了証書授与  
26日 ゲームやホストファミリーへのThank you cardを書いて過ごした後バンクーバー国際空港から日本へ出発

企画・帯同の菊池先生に研修の成果についてお聞きしました。

- ・ **教室では学べない学び**：生徒にとって「英語」は教室では学習科目の一つでしかないが、カナダでは、英語はコミュニケーションツールであり、生きる術であった。ゆえに、英語が好き嫌い、得手不得手に関係なく、人と関わるため、生きるために英語を使うので、自然とそれが身についたことを実感した。実際に帰国後の研修報告会では、全員が英語でプレゼンテーションをしたが、どの生徒も英語で表現することがとても上達した。
  - ・ **見識の広がり**：英語研修では、日本で当たり前のことが当たり前でなくなる経験（社会的ルール、生活習慣、モノの見方考え方など）を避けては通れなかった。その経験により、多様性を受容する下地を身につけられた。自分の考えを述べることや人と異なることが周囲から普通に受け入れられることで、自分と向き合うきっかけができ、そこから他も受け入れる考え方ができるようになった。
  - ・ **挑戦することの大切さ**：ある生徒は人と話すことが苦手、また別の生徒は英語が苦手、あるいは海外に行ったことがないから不安、など個々の状況が異なる中で、「研修に行って〇〇を達成したい!」という各々の目標を持って研修に臨んだ。カナダ到着直後は、全員緊張で固まっていたが、時間と共に、昨日できなかったことに今日は挑戦する、今日は手を挙げて発言してみる、今日は～に英語で話しかけてみる、など一步一步勇気を振り絞って10日間を過ごした。その結果、やればできる!心配することはなかったな!と実体験を通じて、まずは恐れるより挑戦してみるの方が重要なんだと気づいた生徒が多かった。
- 参加者は皆、またカナダに戻って今回の研修で成し遂げきれなかったことをしたいと言っていました。海外での研修経験は、ただの観光旅行よりずっと生徒の心に残り、人間的な成長に影響を及ぼすものと思います。このような経験をできる生徒が増え、将来の進路選択に活かせるように国際交流の企画運営を引き続きしていきたいと思います。



# 学園トピック

## 夏のグローバル教育 ② 菅生学園初等学校

### オーストラリア・スタディ・ツアー

- 目的 ①日頃の学習成果を発揮し、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢を培う。  
②ホームステイ、学校生活での体験を通して異文化の認識と理解を深める。  
③事前学習を活かし、環境など大きなテーマについて「考える」「学ぶ」契機にする。

- 期間 7月23日～30日  
7月23日 羽田空港出発  
24日 シドニー到着 ブルーマウンテンズ国立公園散策  
25～28日 Our Lady Queen of Peace Primary School研修  
29日 シドニー市内観光 シドニー空港出発  
30日 羽田空港到着

- 場所 オーストラリア・シドニー  
交流校 Our Lady Queen of Peace Primary School  
参加者 11名



### ブリティッシュヒルズ英語研修

- 目標 ①英国の文化風習・マナーを体験し、異文化理解や英語学習のモチベーションへつなげる。  
②非言語コミュニケーションを使い、伝えようとする姿勢を養う。

場所 神田外語グループ ブリティッシュヒルズ(福島県岩瀬郡天栄村)

日程 8月12～14日

- 1日目 Manner House Tour Survival English, Connect  
2日目 The World we live in, Dreamcatcher, Cooking Scones Trifle, Calligraphy, Table Manners in English  
3日目 Gel Candle Making Fun with directions, English language in film, 修了証授与・修了式



## 菅生学園教職員研修会

今年も8月30日（金）9：00～15：00 初・中・高の全教職員を対象とした「菅生学園教職員研修会」を学びの城で開きました。内容は以下の通りです。

1. 理事長講話「菅生の将来を見据えた経営課題」
2. 講演「東京都の教育とサービスの厳正に関する事故防止」  
講師；前 東京都立大島海洋国際高等学校 校長  
大山 敏 高等学校副校長 兼 一貫部副部長
3. 一貫教育取組具体化検討会議 部会報告（4～8月に開催した部会の内容）
  - （1）教務部会・・・河野一昭教諭
  - （2）生徒指導部会・・・坂田正晴教諭
  - （3）広報部会・・・会田信一教頭
  - （4）国際交流部会・・・村田隆一教頭
  - （5）研究部会・・・小島拓海教諭

<昼食 休憩>

4. 一貫教育取組具体化検討会議 拡大部会  
全教職員が、5つの部会のいずれかに出席して一貫教育の対策を主に話し合う。
5. 拡大部会報告
  - （1）教務部会・・・田口 薫教諭
  - （2）生徒指導部会・・・村上 晋教諭
  - （3）広報部会・・・小松佑将教諭
  - （4）国際交流部会・・・阿部智秀教諭
  - （5）研究部会・・・河田洋佑教諭

この研修会は年一回8月末に開いております。それぞれの教育活動の都合上、全教職員が一堂に会す機会は、年始の新年式とこの時しかとれない貴重な時間です。

まず、理事長が日ごろの教職員の職務遂行に対して感謝と労いの言葉をかけ、学園経営の現状と今後の課題について一貫教育校構想を中心に話しました。特に、昭和58年開校当時のポスターを示し、学園の経営理念を確認しつつ募集活動・教育活動を推進して行くことを強調しました。

続いて今回の講演は、長く東京都の中高教育に携わり、4月に本学園に着任しました大山 敏 副校長兼一貫部副部長が「東京都の教育」の方針等について、詳しく話しました。

私学の教育を効果的に進め、実績を積んでいくためには、公立の学校がどのように進みつつあるのかを知っておくことは極めて大切なことです。その意味で、大変良い学びの機会になったことと思います。（副理事長 和智紀朗）

### 大山 敏先生 プロフィール

1988年3月 早稲田大学大学院政治学研究科日本政治史専攻 修士課程修了

- 1994年4月 東京都立大島南高等学校 教諭
- 1997年4月 東京都立府中西高等学校 教諭
- 2007年4月 東京都千代田区立九段中等教育学校 主幹
- 2008年4月 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事
- 2012年4月 東京都立上野高等学校 副校長
- 2014年4月 東京都教育庁指導部都立高校改革・生活指導担当主任指導主事
- 2014年11月 東京都教職員研修センター人材育成担当主任指導主事
- 2015年4月 東京都台東区立柏葉中学校 校長
- 2018年4月 東京都立豊島高等学校 校長
- 2023年4月 東京都立大島海洋国際高等学校 校長



著書 （多数ありますので、2020年以降のものを掲載します）

- ・実践紹介「校長室の窓から」2023.3『ぎょうせい』
- ・実践紹介「中堅校改革で大切なこと」2022.5.23『週刊教育資料』1658号 2022.6.6同 1659号 2022.6.13同 1660号 学事出版
- ・調査報告「高大接続改革と大学入試改革、そして普通科高校長たちの思い」pp34～37 2022.3『月刊高校教育』学事出版
- ・調査報告「普通科高校から見た大学入試・高大接続改革の課題と展望」pp38～41 2021.3『月刊高校教育』学事出版

# 大山 敏 高等学校副校長 兼 一貫部副部長ご紹介

今年4月から新たに菅生学園の一員となられた高等学校副校長兼一貫部副部長大山敏先生自己紹介をお願いします。

## 1、来歴

出身地は福島県郡山市の東端、阿武隈山系のとば口（すぐ隣は、伊達政宗の正妻愛（めぐ）姫の出身地で三春駒や滝桜が有名な三春町です）で生まれ、高校3年18歳まで育ちました。

小学校時代は3年生まではオール5で、6年間を通して勉強も運動もでき会長も務めた優秀な児童でした。お山の大将になってしまう危機感を抱いた中学校教員の父が、町中（まちなか）の大きな中学校に進むことのできる学区内に転居してから、中学校・高校時代はそれほど目立つ生徒ではなくなりました。高校時代は男子校で受験勉強ばかり、あまり楽しい記憶はありません。田舎の高校には実学尊重の風（ふう）がありましたので、東京の大学の文学部に進むことを報告に行っても歌人だった国語の先生以外はあまり喜んでくれなかったのを憶えています。しかし、六大学出身のHR担任は東北大学より私に合っていると、やはり快く思っていなかった母を家庭訪問までして説得してくれました。

ただ単に東京に出ただけの私は、でもやはり大学が肌に合っていたのか、「何でも見てやろう」精神で4年間東京を満喫しました。特に東京でしか当時観られなかった戦前の無声映画や旧いトーキーの時代劇が大好きだった私は、京橋にあった近代日本フィルムセンターに通っては毎日映画ばかり観ていたことが多かったです。

一方、まだマルクス主義が幅を利かせていた時代で、「サルが人間になるについての労働の役割」から「実践論・矛盾論」「資本論」まで、日本資本主義パートと現代中国パートに分かれて、歴史研究を踏まえて日中平和友好の道を探る中国研究会というサークルで、必読文献として読まされたのには閉口しました。また、繰り返し先輩から（その中には、現在、宝仙学園中高の校長の富士さんや啓明学園の校長の大坪さんもいました）お前の問題意識はどこにあるのかを問われ悩みもしました。でもそのおかげで、日本近現代史の卒論ゼミでも「一言居士」として通るほど議論好きになっていました。また、大学の4年間は自由民権運動100年の4年間でした。福島・喜多方事件100年から秩父事件100年までのスパンで、当時東京経済大学にいた色川大吉さんらとこの西多摩の地は民定憲法制定や憲法や人権に関する学習会の歴史の掘り起こして何度も訪れました。いきおいあまって、日本政治史や地方自治の歴史をきちんと学びたいと思い、大学院修士課程にも進みました。

## 2、教員としての道のり

父が中学校の教員だったこともあり、大学で教職課程も取りましたし教育実習にも行って、教員免許は取得していたので、大学4年の時は福島だけでなく、東京や千葉の教員採用試験も受けましたが、真面目に取り組んでいなかったため落ちました。一方、大学院時代からアルバイトで行っていた出版社に採用されて雑誌やシリーズ本の編集をしていましたが、途中から自分の工夫を凝らした企画がごとく営業や編集の内部で却下されるようになったため、真剣に転職を考え、そのくせ二日酔いで申し込み、二日酔いで受けた東京都の教員採用選考に最後まで残って、伊豆大島の水産高校に赴任することになりました。やはり、技術指導のできた陸上部の生徒を頻繁に自宅に連れてきていた父の背中を見て影響されたことは否めませんが、何となく子供と接する仕事が自分に合いそうな気がして教員の道を選びました。おかげで、生徒と距離を取ることの大切さを実践するには大きな苦労がありました。

父の教えでもありますが、学校勤務で大切にしてきたのは、いろいろな生徒のために教員が行う教育活動に必要なことを予算執行して実現してくれる事務室（都立高校では経営企画室と言いました）の皆さんを大切にすること、教員では手が足りないとき教育活動の実施を助けてくれるPTA（本校では父母の会）の皆さんを大切にすること、です。

本分である教員の仕事で最も大切にしてきたのは、その日その時に時々刻々と変わる生徒の実態について何をしておいてもまずは正確に把握し、自分があらかじめ計画していた授業や特別活動に大きな変更を伴っても、柔軟に対応すること、学習対象に対する生徒の関心を高めるために必要なあらゆる手段を模索すること、です。

## 3、座右の銘

開高健の対談集の表題ですが、「悠々として急げ」です。頭を上げて悠々とあたりを睥睨する広い視野を持つこと、しかし水面下では必死に頭と体を回転させてその都度自分に必要なものを手に入れる粘り強い努力を欠かさないこと、と解釈しています。

## 4、趣味

ラグビーをプレイすることと観戦することが40代半ばまでの最大の趣味でした。それがなくなった今は、もともと好きだった映画、特にSF洋画の鑑賞、娘の影響で始めたアニメや漫画の鑑賞、死ぬまでに読まねばならない小説から学術書までをかたっぱしから読み漁ること、です。

## 5、菅生学園について

幼小中高大まで、就学前から高等教育まで一貫できる菅生学園はとても魅力的に思いました。でも、菅生高等学校から東海大学に進学する生徒が少なかったり、幼稚園がなくなってしまういたり、初等学校や中部から外部の学校に進学してしまう児童・生徒がいる現実をしっかり見据えつつ、各学校相互の教員や教育課程の連携を図っていくことの重要性に思いを致しました。

初等学校・中高一貫部（という名称に中等部から変わるのかどうかは分かりませんが）と菅生高等学校を、区別するところは区別しつつもどのように連携させていくかの構想を描き、実現し切る一助となるのが私の抱負です。

## 6、菅生学園の子どもたちに望むこと

子どもたちには、人間世界だけでなく、社会や自然にもっと眼を向ける広い視野を獲得してほしい、自分で考えて自分を根拠として自分たちで協力して動きを決め実践できる主体性を身に付けてほしい、と望みます。

# 菅生学園初等学校・東海大学菅生高等学校中等部

## 校長メッセージ



布村 浩二校長

### AIとの共生に必要な力

日本では2016年がAI元年と言われます。間違いなく今の小学生や中学生は生活の中でAIと共生することになります。「AIは人を超えるのか」という問いについて、“超える”ということが、“人より効率的に素早く作業を処理すること”だとしたらそれはすでに超えています。“人と同じように物事を考えて判断して処理すること”だとしたら、既に昨年末には超えたのではないかとされています。では、“人と同じように創造して新しいものを生み出すこと”だとしたら今の技術や性能の延長線上では厳しいでしょう。

そこで、共生に備えていまつけておくべき力は、クリエイティビティ（例えばストーリーテリング）やコミュニケーション能力（他者との共感）、それを活用する能力（技術力や言語力）やクリティカルシンキングと何よりエンパシーです。

授業やクラブ活動や行事それぞれで培うことのできる、また育まれる力こそがAIとの共生に最も必要な力なのです。

## 菅生学園初等学校

### トピック

#### ブルースクール

2年に一度行われるブルースクール（臨海学校）が、7月17日～19日、2泊3日の日程で南房総市の保田海岸で実施されました。参加したのは4・5年生56名で、7月の水泳指導の成果を活かし、海での実習を存分に楽しみました。また、ビーチコーミングやサンドアートなど内容も盛り沢山で、夜にはバーベキュー大会や花火大会も行われました。

日ごろから縦割り班活動を重視している初等学校ですが、これからの初等学校をリードする2学年の絆が一層深くなりました。



#### オーストラリア語学研修

7月23日～30日に5・6年生の希望者11名がオーストラリア語学研修に行って来ました。シドニーにあるOur Lady Queen of Peace 校と交流し、ホームステイをさせていただきました。英語に自信をもっていた児童達ですが、より学習意欲を高められた研修でした。旅の終わりにはブルーマウンテンズ国立公園やオペラハウスなどのシドニー観光も満喫し、充実した内容になりました。



#### プリティッシュヒルズ英語体験

8月12日～14日に4・5年生の希望者26名が福島県岩瀬郡天栄村にあるプリティッシュヒルズ英語体験に参加しました。ここは標高1000M位置する英語村で、気候もスコットランドのハイランド地方に似ているそうです。全てが本物の施設で授業はもちろん、食事も、宿舎もハリーポッターの世界でした。2年後のオーストラリア語学研修のため、さらに英語に磨きをかけてほしいです。



## 活動報告

- |                      |                   |                     |
|----------------------|-------------------|---------------------|
| 4 / 6 始業式            | 5 / 31 東初協教員一斉研修会 | 7 / 16 終業式          |
| 4 / 7 入学式            | 6 / 8 オープンスクール    | 7 / 17～19 4・5年生ブルー  |
| 4 / 10 保護者会週間        | 6 / 15 授業参観・蛍の夕べ  | スクール（千葉）            |
| 4 / 15 写生会・個人面談週間    | 6 / 18～21 6年生修学旅行 | 8 / 19～21 全国教員夏季研修会 |
| 5 / 1 全校遠足（昭和記念公園）   | （京都・奈良）           | 8 / 22～27 サマースクール   |
| <雨のための中止>            | 7 / 2 東初協教員一斉研修会  |                     |
| 5 / 11 スッガニア・プログラミング | 7 / 5～12 個人面談期間   |                     |
| 5 / 25 運動会           | 7 / 13 スクールトライアル  |                     |

## 9～12月の活動予定

- |                   |                  |                    |
|-------------------|------------------|--------------------|
| 9 / 2 始業式・引き渡し訓練  | 9 / 30～ 6年生三者面談  | 11 / 13 全校遠足（御岳山）  |
| 9 / 3 身体測定        | 10 / 9 TGG英語体験   | 11 / 16 第2回入学試験    |
| 9 / 7 入試チャレンジ     | (3・4年生 立川)       | 11 / 17 東初協音楽祭     |
| 9 / 11 TGG英語体験    | 10 / 11 開港記念日    | 11 / 23 東初協体育発表会   |
| (5・6年生 青海)        | 10 / 21～ 6年生校長面談 | 12 / 6～ 個人面談       |
| 9 / 14 授業参観       | 10 / 26 マラソン大会   | 12 / 16 終業式        |
| 9 / 21 スッガニアネイチャー | 10 / 31 ハロウィーンディ | 12 / 17～19 スノースクール |
| 9 / 28, 29 菅生祭    | 11 / 1 第1回入学試験   | (2～4年生 孀恋)         |
|                   |                  | スッガニアクリスマス         |
|                   |                  | 12 / 21            |

# 東海大学菅生高等学校中等部

## トピック

### 菅生学園初等学校交流会 & 高校見学会

6月11日に中等部と菅生学園初等学校の交流会が行われました。初等学校6年生の児童が中等部の数学や英語の授業を体験しました。英語ではグループ学習が行われ、医学・難大コース1年生と6年生が共に楽しく学び合うほほましい姿が見られました。午後は医学・難大コース3年生が菅生中等部の学校生活やクラブ活動について、中等部の魅力が上手に伝わるよう丁寧に説明をしました。その努力も実って笑い声がたくさん聞こえる和やかな雰囲気のなかで会は進みました。会の終わりに6年生からの質問タイムもありました。

翌日には中等部3学年の生徒が東海大学菅生高等学校の本校舎を訪れ、校舎内を見学しました。中等部出身の先輩たちを見かけるたびにはしゃいでいる姿が見られました。(授業中にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。)そのあとに内部進学生の2年生から実際の高校生活についての説明を受けました。充実した高校生活を思い描くとても良い機会となりました。

9月中旬には初等学校の児童が中等部のクラブを体験する企画を予定しています。高校見学会はコロナ禍の期間も含め一時中断していましたが今年度再開しました。今回の交流会と見学会を通じて、児童や中学生たちのたくさんの笑顔や堂々とスピーチをする高校生の姿をみて、これからも意義のある交流の場を設けることがとても大切であり、必要であると思いました。そして同時にお互いの理解がより深まり共に行動する機会が増えていくことが学園全体のさらなる発展にもつながると感じました。今回のイベントの企画や運営には多くの教職員の皆様のご協力がありました。お忙しい中でご尽力いただいたことに心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



## 活動報告

4 / 6 始業式	5 / 18 学校説明会	6 / 15 学校説明会
4 / 7 入学式	5 / 21 ~ 22 前学期中間試験	6 / 19 授業公開
4 / 11 新入生歓迎会	5 / 31 生徒総会	7 / 1 ~ 3 前学期期末試験
4 / 13 保護者会(2,3年)	6 / 5 警察講演(2,3年)	7 / 14 オープンスクール
4 / 23 ~ 25 校外学習	6 / 11 初等学校6年生との交流会(1S, 3S)	7 / 17 夏休み開始
5 / 10 自然観察教室(1年)	6 / 12 高校見学会(3年)校内風景スケッチ(2年)	7 / 17 ~ 19 指名補充
5 / 11 保護者会(1年)	6 / 13 芸術鑑賞教室	8 / 24 理科実験教室

### クラブ大会成績(都大会以上)

- 野球 第63回東京都中学校総合体育大会兼第77回東京都中学校野球選手権大会ベスト8
- サッカー ① 第63回東京都中学校総合体育大会兼第77回東京都中学校サッカー選手権大会ベスト8  
② 第63回東京都中学校総合体育大会兼第77回東京都中学校サッカー選手権大会  
優秀選手賞 3年 倉田 遼
- ソフトボール ① 第73回東京都中学校夏季新人ソフトボール選手権大会 準優勝  
② 第52回関東中学校ソフトボール大会 優勝  
③ 第46回全国中学校ソフトボール大会女子部 優勝  
④ 第46回全国中学校ソフトボール大会女子部 最優秀選手賞 2年 北村 葉琉
- バスケットボール 第77回東京都中学校バスケットボール選手権大会 都大会出場
- 卓球 第52回関東中学校卓球大会 個人シングルス ベスト32 3年 国分 琉斗
- 硬式テニス ① 第50回東京都中学校テニス選手権大会 男子ダブルス 優勝 (3年 竹田 朋生 2年 池田 亘佑)  
② 第4回関東中学校テニス大会 男子ダブルス 優勝 (3年 竹田 朋生 2年 池田 亘佑)  
③ 第51回全国中学生テニス選手権大会 男子ダブルス ベスト4(第3位) (3年 竹田 朋生 2年 池田 亘佑)
- チアダンス 第14回全国中学校ダンスドリル選手権大会第8位 (SONG/POM部門 Small編成)
- 剣道クラブ ① 第63回東京都中学校剣道選手権大会 男子個人戦 3年 鎌田 璃暉 ベスト16  
② 第63回東京都中学校剣道選手権大会 男子個人戦 3年 長谷川 晴彦 都大会出場  
③ 第63回東京都中学校剣道選手権大会 女子個人戦 3年 伊藤 月詩 ベスト16  
④ 第63回東京都中学校剣道選手権大会 女子個人戦 2年 高橋 美咲 都大会出場  
⑤ 第63回東京都中学校総合体育大会剣道大会 男子団体戦出場  
⑥ 第63回東京都中学校総合体育大会剣道大会 女子団体戦 ベスト16



## 9~12月の活動予定

9 / 2 ~ 6 北海道修学旅行	10 / 11 開校記念式典	11 / 18 ~ 19 後学期中間試験
9 / 14 学校説明会	10 / 23 芸術鑑賞教室	11 / 23 入試体験教室
9 / 25 スポーツ大会	10 / 25 生徒会役員選挙	11 / 27 警察講話(2,3学年)
9 / 28 ~ 29 菅生祭	10 / 31 郷土学習(1学年)	12 / 4 夢育て講座
10 / 1 学期更新式	校外学習(3学年)	12 / 14 入試体験教室
10 / 5 オープンスクール	11 / 2 学校説明会	12 / 20 音楽祭
10 / 8 校内主張大会	11 / 9 保護者会(1,2学年)	12 / 21 全校集会

# 東海大学菅生高等学校

## 校長メッセージ



峰岸 英仁校長

### ポジティブに捉えたい

私の使命は、建学の精神に基づいた思考ができる主権者の育成です。それを「一人ひとりが調和のとれた考え方ができる賢さを身につけ、より良い文明社会をつくろう」と表現しています。本校卒業生が、日本を世界から尊敬される国・素晴らしい国に発展させ、平和で幸福な人生を送ることを期待しています。日本に関しては、メディアをはじめ多くの国民もネガティブに捉えています。平和を議論するとき、「日本は戦争犯罪・侵略国家である」が前提になっています。しかし、まずは客観的事実・真実に基づくべきでしょう。（イスラエルのガザ地区への報復攻撃は虐殺で犯罪だと批判されますが、連合国による東京大空襲や原爆投下を戦争犯罪だと責める声はありません。）一昨年からの円安で、国力低下だと卑下する評論が多くあります。世界の貨幣の通貨量からすれば、これはドル高による一時的なもので、日本にとっては資産を増やすチャンスのはずです。自国のことについても事実をもとにポジティブに捉えたいものです。

## トピック

### 美術部 最優秀学校賞受賞

学展で本校美術部は「最優秀学校賞」に選ばれました!! また、8月10日に個人の表彰があり、下記の生徒が受賞しました。GAKUTEN 芸術最優秀部門賞 2-5 野田瑛広 審査委員賞 1-10 野島彩加入賞 3-5 岡武優助 1-3 橋爪晴香 出品者4名と1年生が列席しました。展覧会では刺激を受け、次の作品はこうしたい等の発言もありました。今年度は6名の入賞、入選だけでなく、最優秀学校賞も頂きました。その賞に見合った作品を皆様に見て頂けるよう、頑張っていきます。



### カナダ夏期英語研修

7月27日に全員が研修を終えて無事に帰国しました。7月25日(木)は、最後の英語の授業と修了式がありました。午前中はテキストやKahoot!で勉強し、Skitの練習を行いました。また傘をさして、森の中へ行き、常緑樹と落葉樹、苔、石、芝を収集し、カナダ全土の地図に載せて、カナダ国土の特徴を学びました。午後は修了式で、Skitの発表、修了証書の授与が行われ、アンドリュウ先生からおほめの言葉をいただきました。その後は、各々がパディとともにサッカーやボードゲーム、手遊びなど最後のお楽しみ時間を過ごしました。初日は一言も発することができないくらい緊張していましたが、最終日には、しっかり自分の言葉で気持ちを伝えられていました。



## 活動報告

4 / 5	始業式	6 / 13	芸術鑑賞教室
4 / 7	入学式	7 / 1~4	定期試験B
5 / 7~10	1学年校外学習 (婦恋研修センター)	7 / 18	全校集会
		7 / 19~21	サマースクール

- ・吹奏楽部 A・B・C組 第64回東京都高等学校吹奏楽コンクールにおいて金賞受賞、都大会への代表権
- ・男子バレーボール部 第32回関東私立高等学校男女バレーボール選手権大会 結果Eブロック優勝  
第72回東京私立 中学 高等学校 男女バレーボール大会 ベスト16
- ・卓球部 東海大学学園オリムピック 男女ともに団体・個人優勝に加えてベスト4も独占

## 9~12月の活動予定

9 / 14	第二回学校説明会	10 / 22~25	定期考査C	11 / 25~29	修学旅行沖縄
9 / 25	体育祭	10 / 26	第四回学校説明会	11 / 30	帰国子女入試
9 / 28~29	菅生祭	11 / 2	第五回学校説明会	12 / 17~20	定期考査D
10 / 5	第三回学校説明会	11 / 16	第六回学校説明会		
10 / 11	開校記念式典	11 / 23	第七回学校説明会		

# 菅生 STEAMチャレンジ (10)

STEAM教育 ⇒S(Science 科学), T(Technology 技術), E(Engineering 工学), A(Art 芸術), M(Mathematics 数学)  
このコラムでは、菅生学園の各校が取り組む様々な特徴あるSTEAM教育をご紹介します。今回は東海大学菅生高等学校自然科学部の活動を紹介します。多様な活動を通して、科学の知識・スキルだけでなく、科学する心も育み、活躍の場を広げています。

## ハマヤクサイエンス研究会 奨励賞受賞

8月24日に横浜薬科大学で開催されたハマヤクサイエンス研究会にて研究チームがポスター発表を行いました。1年生の研究チームは初めての発表でしたが、無事に終わることができました。優秀、最優秀賞は逃したものの、奨励賞を受賞。次回はさらに上の賞を取れるようにと、部員たちは意気込みを新たに。会場では他校の生徒さんとも情報交換をして研究仲間を増やすこともできました。

研究内容は、9月20日webニュース「サイエンス学びラボ」で紹介されました。皆さんぜひチェックしてください。



## 東海大学応用化学科で体験授業

東海大学湘南キャンパスにある工学部応用化学科で、大学2年生が受ける応用化学実験の授業を自然科学部部員が体験しました。生徒たちはホウレンソウに含まれる色素成分を、クロマトグラフィと呼ばれる技術を用いて分離。実際の実験で高校にはない高価な機器を使い、生徒たちは大興奮でした。後半は、大学内の分析機器の見学や理論の説明を受け、理系進学へのイメージを膨らませることができました。



## 校内合宿

8月には校内合宿を行いました。1日目は魚釣りをして釣った魚を自分で調理して食べたり、昆虫トラップを仕掛けて夜行性の昆虫を観察。2日目は瑞穂町にある野山北公園の管理団体の職員の方から、ガイダンスをしていただきました。生徒は今までの活動内容に関する質問をたくさんし、自分の研究内容への理解をより深める事ができました。



# 菅生のひとこま (10)

## 《学びの城 東海大学紹介コーナー》

学びの城6階カフェテリア前に、東海大学について紹介するコーナーがあり、7つのキャンパス、23学部62学科・専攻を擁する、日本有数の総合大学東海大学の概要を知ることができます。

菅生学園では大学キャンパス訪問、体験授業を行い、大学の理解を深めています。また、教授による初等学校「ゆたかの時間」の指導など、学園の教育にも様々な支援をいただいている東海大学です。



## 編集後記

国際交流や部活動と、多彩な夏の活動を通して菅生の子どもたちはさらにたくましく成長し、実りの秋を迎えた学園に戻ってきました。様々な学びを経て春の頃より少し大人びた笑顔に、私たち大人も引き続き学ばねばと思いました。2024年9月 編集・発行 菅生学園 法人本部 ご意見・ご質問はこちらへ 編集担当：高橋 真実